## 属人区長の書簡 (2014年5月)

2014/05/07

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

教皇様は、復活徹夜祭の福音書のコメントで、主が最初の弟子たちたたのはガリラヤでのことだったとを思い起こしておられましておられた主がガリラが、主されたのは、そこが、主と共にいることができたように「そこに行くように」という招きだったので

す。そして教皇様は具体的にお話し になりました。「私たち一人ひとり にとっても、イエスとの歩みの初め に『ガリラヤ』があります。『ガリ ラヤに行く』ということには、美し い意味があります。それはわたした ちにとって、生きた泉である自分の 洗礼を再発見し、自分の信仰とキリ スト教的体験の源泉から新たな力を くみとることです。ガリラヤに帰る とは、何よりも、歩みの初めに神の 恵みが私に触れた、発火点に帰るこ とです。私はこの火花から、今日 の、また全ての日のために火をとも し、兄弟姉妹に温もりと光をもたら すことができるのです。| [1]

これは5月初頭にぴったりの言葉です。聖母の取次ぎによって、私たちの使徒職の熱意に新たな弾みがつくはずです。創立者は、特に1930年に5月の巡礼が始まったとき以来、聖母の取次ぎを活用するよう励まされました。多くの人たちが、今月の

間、聖母に花を捧げるキリスト信者 の習慣を知っているでしょうし、皆 さんの中には、それを経験した人も いるはずです。それは「私たちの小 さな決心であり、一日の間に摘み 取った隠れたささやかなスミレの花 です。」[2]

聖ホセマリアは決して自分をモデル として示すことはなかったのですが 一つだけ例外がありました。「私の 聖母への愛だけは、真似て欲しいと 思います。| [4]幼少時に教わった 聖母に対するお祈りを子としての信 頼を込めて熱心に毎日唱えていまし た。「神に、そして我らの母なるマ リアに捧げられる短いながらも熱烈 な愛の言葉です。今でも私は、毎日 毎日、朝も夜も、両親から教わった 奉献の祈りを唱えています。『み母 マリアよ、あなたに私のすべてをさ さげます。あなたを愛し、私の眼、 耳、舌、心のすべてをささげま す。……』これはすでに、ある意味 で、観想の始まりであり、信頼に満 ちた委託の明らかな証拠ではないで しょうか。」[5]

ドン・アルバロも、キリスト信者の多くの家庭のように、子としての愛情を込めて聖母に接することを両親から教わりました。毎日、母上から習った祈りを信心深く唱えておられました。「甘美なる御母、私を遠ざ

子供たちや孫たちに朝夕の祈りを教えるキリスト信者の両親、それに祖父母は何とすばらしい仕事を重れてした。たとえ年を重れることが忘れることはあられるの変遷でいたらにして、聖母への信者としても、聖母へのに心の奥にいて、まりに思えても、まりに思えていて、この中のとしまいこまれていて、

に必要なときや悲嘆にくれたり落胆 したりすることがあると、再び、活 気づくことが珍しくないのです。

ドン・アルバロは、聖ホセマリアの 説教や模範のおかげで、聖母信心を 神学的に深く堅固なものにしまし た。数時間の黙想の間にオプス・デ イへの召し出しに応えたときのこと を思い起こし、こう話しました。 「その黙想で、パドレは神への愛と 聖母への愛について説教しました。 そして私は衝撃を受けたのです。」 [6]すぐにオプス・デイへの所属を 願い出ました。それは、聖母の仲介 で主がお与えになった稀有な恩恵 だったことに疑いの余地はありませ ん。ドン・アルバロはすぐさま揺る ぎない決意で応えました。

全ての恩恵は聖マリアの母としての とりなしによってもたらされます。 聖母はOmnipotencia suplicante 全 能の仲介者です。ですから、これか

らの日々には、聖母とより親密な語 り合いを増やさなければなりませ ん。もちろん一年中そうあるべきで す。こうして、イエスとの一致がよ り堅固になり、使徒職の熱意が高ま ることでしょう。他の日々と同じよ うに巡礼において、心を込めてロザ リオを唱え、神秘の黙想をするよ う、よりいっそう注意を払うことに しましょう。そうするとドン・アル バロが言われたように、「絶えずマ リアを诵ってイエスに『行き戻る』 ことが定着する | [7]ことでしょ う。

聖ホセマリアは、「道」のある一節でこのように振る舞うことを勧めています。ドン・アルバロはオプス者での生活を始めた頃、創立者ではどういう意味なのかって、戻る」とはどういう意味なのかってもました。創立者の答えによますに、からでいるがあるぎないものになったのでしず揺るぎないものになったのでし

この考察はこれからの数週間、特別に心がけるべきことです。ドン・ルペラとです。ドンルペの聖母へのサを思いしていました。「こだんなでを聖母にを重したが、創立を皆されば、聖母にお捧げするといった。それは、聖母にお捧げするとき、です。それは、ことを勧めるとき、です。『小れたバラ

ドン・アルバロは、多くのキリスト 信者と同じように、生涯にわたって 聖母に対する細やかな愛情を磨かれ ました。それは創立者から学ばれた ことです。部屋の出入りのときだりで 聖母像を見かけたら聖母に対する、就寝前の三つのアベマリア する、就寝前の三つのアベマリアを オプス・デイ創立金祝の年、1978年 をオプス・デイの「マリア年」と定 め、1979年1980年にも続けました。 それは、女性との使徒職開始の50周 年を準備し感謝するためでした。当時、こう説明されています。「特別なことをしたり、人目を引くようなことはしません。よい子供として、単純に『あらゆることに、あらゆることのために』聖母をより熱心に頼りにすることです。」[9]

あのマリア年の間、ローマ内外で多くの聖母像を訪ねるロザリオの巡・オプスを教皇様、オプスと教皇様、オプスを入々のこれななで全ての人は、聖母のだった。これにことのではとのがあるでは、のはは、のはないのではないのではないではないにはないないである。 聖母を絶対に信頼しておいたのですから。 当たりにしていたのですから。

愛があれば人は細やかになり、愛する人と共にいるための方法を見つけ出すのが巧みになります。ドン・アルバロは、オプス・デイ創立者の多

くの勧めに従い、聖母信心において このように振る舞っていたのです。 聖ホセマリアが教えています。「神 の現存を保つため人間的な手段を使 いなさい。私はそれで、旨く行って います。| [10]毎日、何かの折に 取り出して接吻するため、小さな十 字架をポケットに入れておくよう に、また仕事机には主か聖母の御絵 を置くように勧めました。「時々そ れを眺め主を思い起こし、全てをお 捧げします。あたかも両親の肖像画 や写真に目を向けるように。いえ、 それ以上に大事なことです。主は、 神なる父、神なる友、そしてもっと も愛すべき御方なのですから。| [1 1]

ドン・アルバロは、「人間的手段」を最後まで活用されました。聖母への愛を示しそれを磨くために、思い出す工夫をしていました。例えば、マリア年の計画を示唆されたばかりの頃、執務室のテーブルの聖母の御

絵を日々取り替え、愛情を込めて御 絵に視線を注ぎ、射祷を唱えておら れました。

あのマリア年の間、オプス・デイの多くの信者が、創立者の発案でドン・アルバロが深い信心を持って実行したsanto y seña mariano(聖母との合言葉)を生活に取り入れました。それは、一日中神の現存を保つことができるように聖母に助けを求めるため、射祷の形にした短い言葉です。

今月は、このきわめてキリスト教的な面を尊重し深める機会に恵まれています。13日のファチマの聖母の出は、その母としての配慮を思いむこさせてくれます。16日から24日とでの間は、聖ホセマリアが教会のとまず。24日は、典礼上「キリスト信者

の助け」の聖母を祝います。そして、今月は聖母の従姉の聖エリザベト訪問の祝日で終わります。ほかにも様々な国に固有の聖母信心が数多く見られます。

聖母に関する創立者の説教や著作を 再読するようお勧めします。それに よって、マリア信心を刷新し、マリ アとの関わりを深めるよう促され、 そうして、イエス・キリストとの親 密さを深め、主において神なる父、 聖霊とより親しくなるでしょう。 「マリアとの出会いにより、多くの 人が心を改め、神に仕える決心をし ました。聖母は、人々の、神を求め る望みを育て、騒ぐ心をさらに騒が せ、新しい道、新たな生き方へと導 いたのです。| [12]

「ですから、聖母の母としての取り成しを全面的に信頼し、確信することです。そして、聖母を称えるため思いきり多くの人を巡礼に誘うよう

あらためて私の種々の意向のために 祈ってくれるようにとお願いして、 ペンを置くことにします。5月10 日、ローマで私が叙階の秘跡を好る 30人の属人区新司祭のための励ま で同伴してください。聖母の励まで とご保護のもとに、教皇様そして とご保護の仕事において教皇様、 会の統治の仕事において教皇様、 りておられる方々、司教との祈りを 道者の方々、全信徒のための祈りを 続けてください。復活したキリスト の光が知性と心を照らしてください ますように。この願いを聖母に委ね ましょう。聖母は、聖霊降臨の祭日 の準備を導いてくださいます。聖母 信心をよりよくするためにどんな計 画を立てているでしょうか。毎日 といる特別の贈り物を聖母に捧げま しょうか。

今月は、聖母が、私たちの人生とオプス・デイの歴史の中で重要な役割を果たされたことを示す日付がほかにも沢山ありますが、それには言及しないでおきます。

心からの愛を込めて祝福を送りま す。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2014年5月1日

[1]教皇フランシスコ、2014年4月 19日復活徹夜祭の説教。

[2]聖ホセマリア、1958年3月19日 説教のメモ。

[3]聖ホセマリア、1930年3月24日 手紙13番。

[4]聖ホセマリア、1954年1月、教会でマリア年の始まった時の言葉。

[5]聖ホセマリア、『神の朋友』296 番。

[6]ドン・アルバロ、1975年10月3 日家族の集まりのメモ。

[7]ドン・アルバロ、1985年5月2日 手紙。

[8]ドン・アルバロ、1984年5月1日 手紙。引用されている聖ホセマリア の言葉は1970年5月20日グァダルー ペ大聖堂での個人的な祈りの中の言葉。

[9]ドン・アルバロ、1978年1月9日 手紙。

[10]聖ホセマリア、1974年3月30 日家族の集まりでのメモ。

[11]同上。

[12]聖ホセマリア、『知識の香』 149番。

[13]ドン・アルバロ、1984年5月1日手紙。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2014nian-5yue/ (2025/12/16)